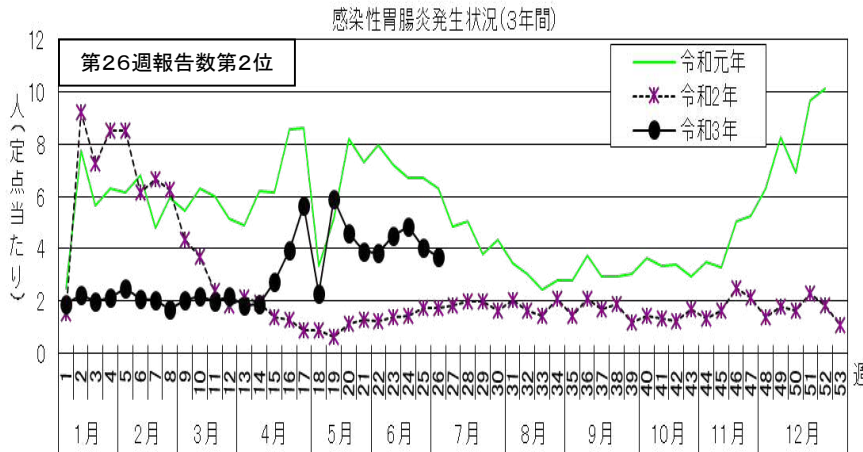
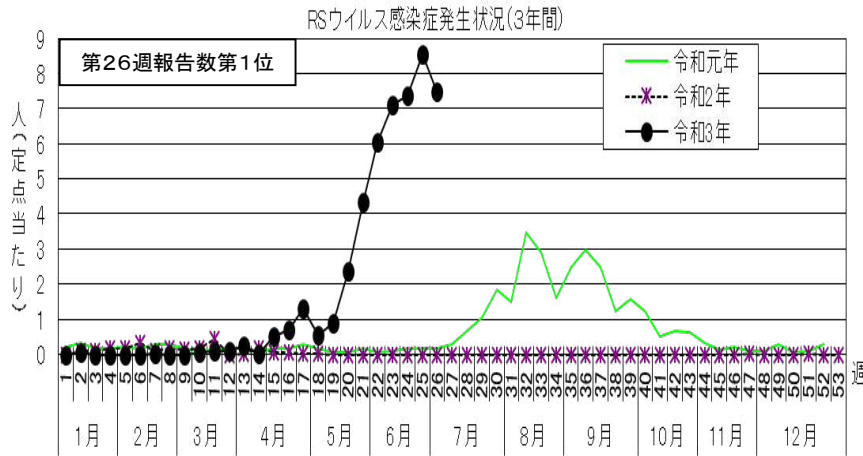


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和3年6月28日（月）～令和3年7月4日（日）〔令和3年第26週〕の感染症発生状況

第26週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)RSウイルス感染症 2)感染性胃腸炎 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・突発性発しんでした。RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は7.49人と前週（8.54人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.68人と前週（4.05人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.35人と前週（0.49人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.35人と前週（0.51人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。



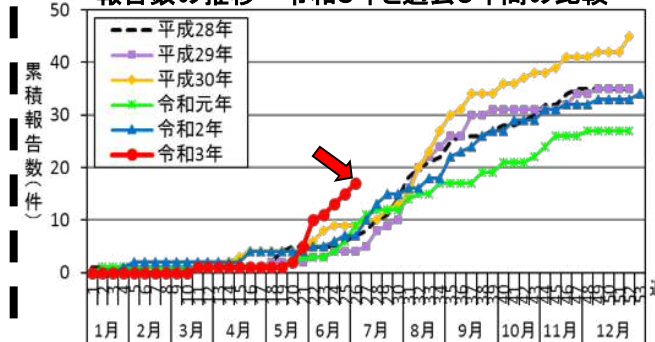
例年より増加しています！～腸管出血性大腸菌感染症～

腸管出血性大腸菌感染症は、強い毒素を産生する大腸菌を原因とし、激しい腹痛、頻回の水様性下痢や血便などの消化器症状を引き起こす感染症です。特に、小児や高齢者は溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症などの重症な合併症を起こすこともあるため、感染した場合には注意が必要です。

川崎市においては、例年より早い5月下旬から報告数が増加し、令和3年第26週（6月28日～7月4日）までに計17件の報告となり、過去5年間と比べて最多となっています。

例年、6月～9月にかけて気温の上昇とともに報告数が増加するため、食品の適切な取扱いや手洗いなどの予防対策を徹底しましょう。

川崎市における腸管出血性大腸菌感染症累積報告数の推移—令和3年と過去5年間の比較—



腸管出血性大腸菌感染症の予防対策

●食中毒予防

- ✓生で食べる野菜は流水でよく洗う。
- ✓肉や加熱不十分な肉の喫食は避け、中心温度75℃1分間以上で加熱する。
- ✓肉を焼く際には、専用の器具（箸やトングなど）を使用する。
- ✓まな板は、使用の都度洗剤でしっかり洗い、熱湯又は次亜塩素酸ナトリウム製剤で消毒する。

●二次感染予防

- ✓食事の前、排便後などは手洗い、手指消毒を徹底する。